



TITLE:

京大広報 No. 590

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 590. 京大広報 2004, 590: 1703-1720

ISSUE DATE:

2004-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196508>

RIGHT:



京大広報

No. 590

2004. 5

目次

〈大学の動き〉

- 部局長の再任……………1704
京都大学名誉博士称号贈呈式……………1704
新入生向けガイダンスの実施……………1705

〈部局の動き〉

- 京都大学／ユネスコ／国際斜面災害研究機構・
UNITWIN 共同計画本部設立記念式典……………1706
生存圏研究所看板上掲式……………1707
法科大学院開設記念行事を開催……………1707

〈寸言〉

- 広島京大会の活動 徳永幸雄……………1708

〈随想〉

- 大気中二酸化炭素濃度の大幅増に思う
名誉教授 松井正和……………1709

〈洛書〉

- 溪流生態学入門 山下 洋……………1710

〈資料〉

- 平成16年度入学試験諸統計……………1711
平成15年度教育実習実施状況について……………1716

〈計報〉……………1717

〈日誌〉……………1718

〈お知らせ〉

- 平成16年度創立記念行事音楽会の開催……………1719

〈公開講座〉

- 平成16年度（第68回）農林経済・経営・簿記
講習会……………1720

〈編集後記〉……………1720



山田 圭さん
『懐かしの時計台』

大学の動き

部局長の再任

薬学研究科長・薬学部長

橋田 充薬学研究科教授（医療薬科学専攻薬品動態医療薬学講座担当（薬物動態学））が、5月1日付けで薬学研究科長・薬学部長に再任された。任期は平成18年4月30日まで。

エネルギー科学研究科長

笠原三紀夫エネルギー科学研究科教授（エネルギー社会環境科学専攻エネルギー社会環境学講座担当（エネルギー環境学））が、5月11日付けでエネルギー科学研究科長に再任された。任期は平成17年3月31日まで。

京都大学名誉博士称号贈呈式

4月12日（月）午前10時30分から百周年時計台記念館迎賓室（旧総長室）において、尾池和夫総長、東山紘久教育・学生担当理事等関係者出席のもとに京都大学名誉博士称号贈呈式が挙行政され、米国マサチューセッツ工科大学・生物学神経科学ピコワ教授利根川 進氏に、京都大学名誉博士の称号が贈呈された。

また、贈呈式の当日、同館百周年記念ホールにおいてウイルス研究所および大学院生命科学研究科の共催で、学内外から約450名の参加を得て、同氏の学術講演会が行われた。「分子生物学から免疫学、そして脳科学へ」の演題で講演があり、参加者は熱心に聞き入った。

講演会終了後祝賀会が開催され、尾池総長の挨拶、利根川氏のスピーチの後、ウイルス研究所時代の指導教授であった渡邊 格ウイルス研究所元教授の発声で乾杯した。参加者の和やかな歓談のなか、伊藤維昭ウイルス研究所教授、理学部時代の同級生宗村庚修氏が祝辞を述べられるなど、盛況のうちに幕を



閉じた。

利根川氏は、1963年3月京都大学理学部化学科卒業後、京都大学ウイルス研究所を経て、1968年8月カリフォルニア州立大学サンディエゴ校生物学専攻の博士課程を修了（Ph.D.）、1971年1月からスイス・バーゼル研究所研究員を経て1981年9月からマサチューセッツ工科大学の教授に就任し、現在に至っている。その過程でT細胞抗原受容体の研究に取り組み、多くの成果をあげられた。1983年には文化功労者として顕彰されたことに続き、1984年文化勲章を受章されている。さらに、高等動物の遺伝子が発生・分化の過程で組み換えられる再構成の仕組みを明らかにすることによって、1987年日本人として初めてノーベル生理学・医学賞を単独受賞された。

また、1990年代に入ると、これまでの免疫学から脳の機能解明を目的とした脳神経科学へと研究を展開され、現在は、神経科学会の運営に積極的に参加されており、2002年には米国神経科学会長として学術集会を主催され、基調講演をされた。





米国への留学前に同氏が在籍された本学ウイルス研究所では、同氏を1992年4月より客員教授として迎えている。来学の機会には講義や研究に関する討

議に加え、関係各部署における講演などにおいて、多くの研究者と接し、最新の情報の伝達や、研究の新たな展開に対する刺激を与えて来られた。特に京都大学百周年記念行事の1つとして開催された記念シンポジウムにおいては講演・討論に参加され、学内外の多くの参加者は深い感銘を受けた。

また、バーゼル研究所時代から現在のマサチューセッツ工科大学に至るまでの長年にわたり、本学を含め我が国から多数の若い研究者を受け入れておられ、教育指導における貢献も大きい。その薫陶を受けた研究者が日本の各大学や研究機関において教授職や研究所のグループリーダーに就任しており、研究の推進者として活躍している。

新入生向けガイダンスの実施

本学では、4月2日、5日及び6日の3日間、全学部（10学部）の新入生2,936名を対象とした「全学共通教育に係る新入生向けガイダンス」を開催した。

ガイダンスは、遠隔講義システムにより4会場同時進行で行われ、冒頭、高等教育研究開発推進機構長の丸山正樹副学長が、本学の教育課程および「自由の学風」に根ざした教育理念、さらには学生個人の自学自習を基本精神とした教養教育の目的・目標等を紹介した。引き続き、副機構長の林 哲介教

授から、総合大学としての特徴を生かして各学部、研究科、研究所およびセンターが提供する762科目におよぶ多様な全学共通（教養）科目について、その適正な履修方法の詳細な説明があった。

その後、事務担当者による履修に当たっての事務手続き、学生に対する支援、図書館の利用などについて説明があり、新入生はメモをとるなど真剣な表情で聞き入っていた。



部局の動き

京都大学／ユネスコ／国際斜面災害研究機構・UNITWIN 共同計画本部設立記念式典

1. 京都大学／ユネスコ／ICL の UNITWIN 共同計画

地すべりは、都市域あるいは都市化域において住宅地域や、時として文化遺産・自然遺産や、その他の人類にとっての脆弱な資産も壊滅する。21世紀に入ったばかりの現在、斜面災害危機度軽減と、文化・自然遺産の保護は極めて重要であるが、国際レベルでの斜面災害に関する共通のプラットフォームが存在しなかった。そのため平成14年1月に国連4機関と文部科学省等の支援により、国際斜面災害研究機構（ICL、会長：佐々恭二・防災研究所教授）が京都に設立され、次いで平成15年4月に国際的な斜面災害研究推進の核としての斜面災害研究センターが本学防災研究所の中に設立された。一方、ユネスコ教育局高等教育部が推進するUNITWIN（University twining and networking）計画は、世界中の異なる地域の大学及び高等教育機関の研究者らのネットワークによる知識移転を通して能力開発、人材育成に資してきた。そこで平成15年3月に京都大学、ユネスコとICL間において京都大学／ユネスコ／国際斜面災害研究機構（ICL）によるUNITWIN共同計画「社会と環境に資するための新たな斜面災害危険度軽減」の協定が締結された。

2. UNITWIN 本部設立記念式典

上記UNITWIN共同計画を推進するため、本学の平成15年度総長裁量経費とICLの特別予算を用いて、その本部を京都大学内に設置することとなり、これを記念して平成16年1月23日に京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールⅢにおいて「京都大学・ユネスコ・ICL 共同計画本部設立記念行事」を開催した。本式典には3国連機関と13カ国から合計42名が出席した。

式典では、UNITWIN計画コーディネーターを務める佐々教授の開会挨拶のあと、尾池和夫総長、井上和也防災研究所長が歓迎挨拶を述べ、来賓として招へいされたユネスコ自然科学局・ルーバン氏、文部科学省研究開発局・地震・防災研究課・田中宏明氏、日本ユネスコ国内委員会（文部科学省国際統括官付補佐）浅井孝司氏、世界気象機関事務局長代理として気象庁長官の長坂昂一氏の他、イタリア大使

館文化担当書記官ヴィタ氏、在東京ペルー大使館文化担当書記官リサルド氏、ICL副会長（カナダ地質調査所・地すべり被害軽減計画委員長）で国際地質学連合副会長も務めるボブロスキー氏が祝辞を述べた。

また、招待講演として、国連国際防災戦略事務局技術顧問であるバサベ氏が国連国際防災戦略活動の現状と平成17年1月に神戸で開催予定の国連防災世界会議について講演を行い、ユネスコ高等教育部UNITWINプログラム主幹のベリゼ氏がユネスコUNITWIN計画の歴史と現状について講演を行った。式典の最後に、佐々教授が「UNITWIN計画『社会と環境に資するための斜面災害危険度軽減』の目指すもの」と題して、防災研究所が実施してきた諸外国との共同研究の成果、それを踏まえた国際斜面災害研究機構の設立と防災研究所斜面災害研究センターの設立、およびUNITWIN計画発足までの経緯、現在の活動状況と将来の活動の方向性について講演した。



UNITWIN 本部設立記念式典で挨拶する尾池総長



記念式典出席者全員の記念写真

(防災研究所 斜面災害研究センター)

生存圏研究所看板上掲式

本年4月1日に発足した「生存圏研究所」は、このほど宇治キャンパス内の木質ホール玄関、本館二ヶ所の玄関に研究所の看板を掲げるべく、長尾 真前総長に揮毫をお願いしていた。幅1.5メートル、樹齢200年を超える巨大な木目麗しき栗材から作成した看板材二枚ならびに櫓（けやき）銘木から作成した看板材に長尾前総長揮毫による「生存圏研究所」の文字を転写し、篆刻を施した。

4月12日に長尾前総長出席のもと、生存圏研究所関係者、宇治地区事務部による看板上掲式が行われた。

生存圏研究所は、人間生活圏、森林圏、大気圏、宇宙空間圏を人類の生存領域（生存圏）として組織的、包括的に捉え、生存圏の状態を正確に診断し、生存圏の現状と将来を学術的に正しく評価・理解するだけでなく、人類の生存と繁栄を脅かす諸問題を解決するための先進的治療技術開発や開拓創成も目指す。組織は、専門分野からなる中核研究部に加え、開放型研究推進部、生存圏学際萌芽研究センターを

設け、研究全体では4つのミッション研究を遂行する。これらの有機的運用により、研究所員と、国内外の研究者が協調・協力しながら、研究・人材育成に取り組むほか、全国の国立大学の教員、そのほかの研究者も利用できる。

（生存圏研究所ホームページ）

<http://www.rish.kyoto-u.ac.jp>

（生存圏研究所）



法科大学院開設記念行事を開催

法学研究科法曹養成専攻として法科大学院が本年4月に発足したことを記念して、4月10日（土）午後、百周年時計台記念館において記念行事が開催された。

まず、記念講演会では、佐藤幸治近畿大学教授・本学名誉教授が「法科大学院の発足にあたって」と題して、司法制度改革及び大学改革の中における法



科大学院の意義を論じられ、本学出身の滝井繁男最高裁判所判事が「今、法科大学院に寄せる期待」と題して、実務家としての長い経験に基づいて、新たな法曹養成教育の場に対する期待を語られた。

開設記念式典では、吉岡一男法学研究科長の式辞、尾池和夫総長の祝辞挨拶に続いて、来賓の清水 潔文部科学省審議官、久保井一匡元日本弁護士連合会会長および領木新一郎法学部有信会会長・大阪ガス相談役からそれぞれ祝辞が述べられ、祝電が披露された。

夕方からの祝賀会は、荒巻禎一前京都府知事、宮崎 誠大阪弁護士会会長の祝辞に続いて、佐藤名誉教授が乾杯の音頭をとって始まり、平行して、法科大学院の教員と学生の懇親会も開かれて、双方の場で和やかな懇談・意見交換が行われた。

（大学院法学研究科）

寸言

広島京大会の活動

徳永 幸雄

広島県下の京都大学卒業生で構成する広島京大会は、昭和50年代半ばに発足し、初代会長は当時の井藤広島銀行頭取、平成4年からは第2代会長の竹下前広島県知事の下、役員・事務局等関係者のご尽力により、脈々と運営が維持され今日に至っている。そして平成13年から私が第3代広島京大会会長を仰せつかり、会長就任以来、3年連続しての総会開催の実現をはじめ、毎月の「吉田山サロン」の開催、年2回の広島京大会ゴルフ大会の開催と多彩な同窓会運営を心がけてきた。そこで最近の広島京大会の活動状況を紹介させていただくこととする。



まず、広島京大会総会は、私が会長に就任した平成13年は「本格的な総会開催5年に一度」の丁度目安の年であったこともあり、是非とも実現したいとの思いで、新役員一同挙げての尽力を得、赤岡副学長のご臨席を賜り「大学の独立行政法人化と京都大学」と題してご講話をいただき、5年ぶりの総会を盛況裡に開催することができた。ただ当初ご臨席を予定していただいていた長尾総長が、ハーバード大学学長就任式への出席招聘により急遽渡米を余儀なくされたことが、唯一の心残りであった。

そのような状況の中平成14年に入り、京都大学より大学主催の地域講演会の広島での開催の打診をいただいた。この地域講演会は、京都大学創立100周年記念事業の1つとして、大学にある知的財産を中心に京都以外の地において広く情報発信を図る目的で、平成9年からスタートされたとのことで、広島を10番目の開催地に選んでいただいた訳である。役員の間で「長尾総長が参加されるとのことでもあり、講演会に合わせて昨年に引き続き総会開催を実現させよう」との機運が急激に盛り上がり、ついに長尾総長をお迎えしての2年連続の総会開催が実現した。人間・環境学研究科森谷教授の「生涯現役のためのおもしろ健康科学」と題する地域講演会の後、総会では長尾総長に「京都大学の現状と課題」と題してご講話をいただいた。京都大学出身者は独立独歩の傾向が強いと言われており、総会開催に向けて出席者の確保が出来るか心配したが、平成13・14年の両総会とも、広島県下の同窓約2,000人のうち、その1割を超える250人にも及ぶ多数の同窓のご参集をいただくことが出来た。

広島では京土会（工学部・土木）、洛友会（工学部・電気）、芝蘭会（医学部）といった学部単位での同窓会は、毎年定期開催されているが、法学部・

経済学部・理学部などを含めた全学部のユニバーサルな集まりは総会ならではのあり、会員相互の親睦の場として、また異業種交流の場として非常に意義深いものがある。

そして平成15年に入ると、役員会で「5年に一度の本格的な総会だけでなく、毎年気楽な総会を」の声が上がリ、期せずして3年連続の総会開催が実現する運びとなった。

今回は積極的な出席依頼の働きかけを止め、往復葉書での案内という「自然体」で100人前後の目標を立てていたが、150人を上回る多数の参加者を得て、金田副学長の「京都大学の現状と課題」と題してのご講話と理学研究科山極教授の「オトコの進化論」と題してのご講演をいただいた後、和気藹々の中での懇親、最後に「琵琶湖周航の歌」の斉唱と会員相互の更なる親睦を深めることができた。

これほど広島京大会が盛り上がっている要因として「吉田山サロン」の効果が大きいと思う。私が会長に就任早々「同窓との日常の気楽な出会いの出来る場所、特に広島は支店経済の町で官公庁・民間を問わず、転勤してみえる同窓の方々が知らぬ地で『そこにに行けば同窓の誰かがいる』場を作るべき」と提唱した結果、毎月第4水曜日に開催される「吉田山サロン」が発足した。定例日の夕方6時開始としており、毎回メンバーは役員・会員を問わず入れ替わるものの20～30人が気ままに集まり、簡単な食事とアルコールで歓談し三々五々散会するといった塩梅で、正に日常的な産学官交流・異業種交流としての貴重な場となっている。

今後も引き続き同窓の絆を一層深め、より豊かな人間関係を築くべく、親密で開かれた広島京大会の運営に傾注していきたいと思っている。

京都大学は107年の歴史を閉じ、4月から国立大学法人として新たにスタートした訳であるが、これまでの自主独立の気風を生かしつつ、21世紀社会へ向けて日本の教育研究の更なる発展に貢献していただきたい。特に経済再生をめざすわが国にとって、新しい価値の創造・産学官の交流・地域との連携が急務の課題であるが、その中で、京都大学が、これまで以上に広く学外への情報発信機能を強化し、知的創造センターとして果たすべき役割は極めて大きいものがある。そして我々地方の同窓会としても、地方講演会などによる情報発信と大学当局とのコミュニケーション機会の一層の充実を願うものである。

（とくなが ゆきお 広島ガス株式会社相談役 昭和22年工学部卒業）

随想

大気中二酸化炭素濃度の大幅増に思う

名誉教授 松井 正和

三月下旬にハワイマウナロア観測所で大気中二酸化炭素濃度 (CO₂) が379ppm となり、この一年間に 3 ppm 増加したという新聞記事があった。過去10年間に平均1.8ppm 増加したのに比べ、大幅に高い。これは世界第二位の石油消費



国となった中国などの急成長国や山火事が一因と考えられるが、海洋との CO₂ 収支の影響も大きく、原因の解明は容易ではない。南極ボストーク基地での氷柱の解析から、過去42万年間、地球は10万年毎に氷期、間氷期が訪れ、CO₂ 濃度も200~280ppm の間で変化してきた。人間活動によって、さらに100ppm 増加したことになる。自然現象は極めて複雑なので、地球温暖化は CO₂ などの温暖化ガスで生じると断定はできない。気候変動の範囲、太陽の黒点活動などと主張する人もいるが、殆どの専門家は二酸化炭素が主因としている。100ppm の増加は氷期-間氷期の変動よりも大きく、すでに自然変動に復しない量である。しかも化石燃料は可採年限がなかなか減少しないと楽観する人もいるが、やはり限りある資源である。先進国の排出削減を取り決めた京都議定書は、CO₂ 増加防止の効果としてはそれほど期待できないが、それも暗礁に乗り上げたままである。

CO₂ 排出削減に特効薬はない。より効果的な方法から幅広く進めて行かねばならない。たとえば、運輸部門によるエネルギー消費の削減である。自動車から鉄道、海上輸送へのモダルシフトは進められているが、より迅速化、低コスト化の課題が残る。自動車の低燃費化は日本発のハイブリッド車がしばらく続くと思われる。量産によるコストダウンと技術の進歩が続き、燃料電池 (FC) 車がこれを追い越すのは大変であろう。電気二重層コンデンサーの性能が飛躍すれば FC 車より電気自動車が再び顧みられる。

電気料金の自由化が電力会社の原子力発電への考えを若干変えたように見える。高額な建設費、バックエンド (後処理) 費の負担、プルトニウムなど長

半減期核種の拡散、保管などの問題が残る。使用済核燃料は使い捨て (ワンスルー) にし、将来必要になれば再処理するのも一つの選択肢である。

化石燃料の中でも CO₂ 排出の少ない液化天然ガス (LNG) への移行が進んでいる。複合ガスタービンの技術進歩により 50% を超える高い熱効率の発電も開発され、送配電ロスも 5% 近くに低下している。需要側では総合熱効率の高いコジェネレーション (熱電併給) が、熱利用の多い病院、ホテルなどで設置されている。中でも家庭用の定置型 FC は、総合効率 (80%) が高く、近い将来の発売へと熱い期待が込められている。しかし、高価格・耐久性の改善のほか、熱利用の経時変化、季節変動への対応などの課題が残る。数倍の熱効率をもつ電動ヒートポンプによる熱利用やガスエンジンによる熱電併給システムをしばらくは追い越せないであろう。

風力発電や太陽電池などの自然エネルギーの利用は強力に推し進める必要がある。日本での風力の発電効率は20%程度と EU に比べ2/3にすぎず、山頂や海上に設置する経費も高い。それでも、今年度中に100万 kw、2010年には300万 kw の設置を目標にしている。この達成には、不安定な発電のためのバックアップ電源や串団子といわれる電力系統の連系の強化が急務である。系統強化には巨額な投資が見込まれるので、その軽減策や負担などの解決策が求められる。

太陽電池を用いる発電のコストは風力よりも更に高い。それでも昨年の世界の生産量は74万 kw と急成長を続けており、その半分を国内メーカーが担っている。ただ再来年には政府の補助金が終了することと、最近のシリコンインゴットの高騰が普及の妨げになる。さらに、発電量の増大とともに、家庭料金での買い取りが困難になるなど、何らかの補助が必要であろう。バイオマスのもつエネルギーの活用 (直接燃料、メタン発酵、燃料化) は大いに期待されるが、ここでは省略する。今後、行政からの強力な適切な指導が待たれるのである。

(まつい まさかず 元化学研究所教授、平成11年退官、専門は分析化学)

洛書

溪流生態学入門

山下 洋



九州で生まれ育った私は、サケ科の魚とは全く縁がなかった。淡水魚といえばほとんどがコイ科であり、子供の頃はフナ、コイ釣りに熱中した。それが高じて魚類研究の分野に進んでしまったのかもしれない。東北地方に職を得て長年暮らすうちに魅入られてしまったのが溪流釣りである。沿岸魚類の生態調査のため頻繁に三陸に出かけたが、調査の間を見つけては、河川調査と称して溪流に入った。初夏の三陸は朝が早く、午前4時にはすでに日が昇っている。朝靄の中藪をこいで河原に出ると、シカによく出会った。カワセミやヤマセミを見かけると、魚が釣れなくても幸せな気分になれる。溪流釣りは半分山登りであるという側面も見逃せない。私はルアー専門なので、数回ポイントをせめて当たりがなければ上流へ移動する。足を滑らして岩から転落したり川に落ちたり、少々危険な雰囲気も楽しい。釣れた魚のうち私の手の甲より小さい個体(<18cm)は放流し、それ以上は持って帰ることにしている。持ち帰る魚はその場で内臓を取り除くが、その際には必ず胃内容物をチェックする。胃内容物のほとんどは水生や陸生の昆虫、さらに腐食した木の葉やゴミであり、捕食された魚類を見ることは全くなかった。それなのになぜ小魚型のルアーを追うのか、明確な理由はわかっていないようだ。ルアー釣りについてずっと気がかりだった問題が最近解決した。ルアー釣りでは、しばしばルアーが川底や木に掛かって放棄せざるを得ないことがある。1個2,000円もするルアーをなくすと財布への影響も大きい。放棄された針付きのルアーが野生生物に対して引き起こす弊害の可能性は、私自身にとって極めて重大な問題であった。これについては、友人がルアー回収装置を考案した。伸縮する釣り竿の先端に布を巻き付けただけの単純な構造だが、これによりほぼすべてのルアーを回収することができるようになった。溪

流釣りのもう一つの喜びは、サケ科魚類の美しさである。魚類の中で一番美しいと思う。今や、コイ科の魚を相手にする気にはとてもなれない。アマゴやオショロコマも美しいが、私は東北で釣れる清楚なヤマメが最も好きだ。サケ科魚類は系統的には古い分類群に属するらしいが、生態的な可塑性に富み環境が変わると柔軟に適応して生活史さえ変えてしまう。陸封型と降海型はその典型である。2年前に京都大学に転勤して以来最も寂しいのは、溪流に行く時間が皆無に近いことである。大きな楽しみを失ってしまった気がしている。

私が所属するフィールド科学教育研究センターは、農学研究科附属演習林、亜熱帯植物実験所、水産実験所、理学研究科附属瀬戸臨海実験所を統合して平成15年度に発足した。森の施設、里の施設、海の施設がひとつの組織となったフィールドセンターは、森林域、里域、沿岸海洋域の生態的な連環機構の解明を目指して“森里海連環学”という新しい学問領域の創生に取り組んでいる。多くの物質は陸域で作られ海に下ることから、物質は基本的には陸から海へ移動する。一方、サケ科魚類は川で生まれ稚魚期に海に降って成長し、海の栄養をたくさん蓄積して森へ戻ってくる、数少ない逆方向の物質輸送機構である。最近の研究では、サケ類が遡上する川では河川に近いほど木の成長がよく、安定同位体を用いて木の成分を分析すると、海を起源とする栄養素が成長に多大な貢献をしていることがわかりつつある。これまでは遊びだったが、もしかしたら私の残りの研究人生の中で、森林の構造まで含めた溪流生態学の調査をすることが可能になるかもしれない。不純と言われるかもしれないが、研究の遂行にモチベーションは重要である。この話のオチは、読者に溪流生態学を説くのではなく、私がこれから入門したいというところにある。

(やました よう フィールド科学教育研究センター教授)

資料

平成16年度入学試験諸統計

1. 募集人数・志願者数・合格者数・入学者数等調

| 学部・日程 | | 募集人員 | 志願者数 | 第1段階選抜合格者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入 学 辞退者数 | 追 加 合格者数 | 入学者数 |
|-------------|--------|-----------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-------------|-------------|------------------|
| 総合人間 学 部 | 前期(文系) | 55 ^人 | 200 ^人 | 192 ^人 | 191 ^人 | 55 ^人 | | | 132 ^人 |
| | 前期(理系) | 55 | 177 | 173 | 172 | 57 | | | |
| | 後 期 | 20 | 366 | 321 | 211 | 20 | | | |
| 文 学 部 | 前 期 | 190 | 629 | 627 | 623 | 193 | 1 | | 223 |
| | 後 期 | 30 | 430 | 306 | 156 | 31 | | | |
| 教育学部 | 前 期 | 40 | 162 | 162 | 158 | 42 | | | 63 |
| | 後 期 | 20 | 189 | 148 | 106 | 21 | | | |
| 法 学 部 | 前 期 | 300 | 905 | 905 | 892 | 304 | | | 329 |
| | 後 期 | 10 | 411 | 287 | 108 | 25 | | | |
| 経済学部 | 前期(一般) | 160 | 573 | 573 | 569 | 161 | 3 | | 238 |
| | 前期(論文) | 50 | 317 | 250 | 238 | 50 | | | |
| | 後 期 | 20 | 588 | 588 | 392 | 30 | | | |
| 理 学 部 | 前 期 | 271 | 841 | 826 | 814 | 271 | 1 | 1 | 301 |
| | 後 期 | 30 | 882 | 869 | 579 | 30 | | | |
| 医 学 部 | 前 期 | 213 | 554 | 473 | 471 | 222 | 11 | 2 | 248 |
| | 後 期 | 30 | 397 | 259 | 155 | 35 | | | |
| 薬 学 部 | 前 期 | 70 | 244 | 243 | 237 | 72 | | | 84 |
| | 後 期 | 10 | 147 | 146 | 102 | 12 | | | |
| 工 学 部 | 前 期 | 857 | 2,323 | 2,322 | 2,291 | 862 | 6 | | 957 |
| | 後 期 | 98 | 1,006 | 806 | 384 | 101 | | | |
| 農 学 部 | 前 期 | 233 | 670 | 670 | 656 | 242 | 3 | | 310 |
| | 後 期 | 67 | 743 | 742 | 464 | 71 | | | |
| 小 計 | 前 期 | 2,494 | 7,595 | 7,416 | 7,312 | 2,531 | | | |
| | 後 期 | 335 | 5,159 | 4,472 | 2,657 | 376 | | | |
| 合 計 | | 2,829 | 12,754 | 11,888 | 9,969 | 2,907 | 25 | 3 | 2,885 |

〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

| 学 部 | 募集人員 | 志願者数 | 第1次選考合格者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入 学 辞退者数 | 入学者数 |
|-------|-------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|--------------|----------------|
| 法 学 部 | 20名以内 | 32 ^人 | 18 ^人 | 15 ^人 | 7 ^人 | ^人 | 7 ^人 |
| 経済学部 | 10名以内 | 24 | 11 | 8 | 8 | 2 | 6 |

〈医学部学科・専攻別内訳〉

| 学部・日程 | | 募集人員 | 志願者数 | 第1段階選抜合格者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学 辞退者数 | 追加 合格者数 | 入学者数 |
|----------|----|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|----------------|------------------|
| 医学部 | 前期 | 213 ^人 | 554 ^人 | 473 ^人 | 471 ^人 | 222 ^人 | 11 ^人 | 2 ^人 | 248 ^人 |
| | 後期 | 30 | 397 | 259 | 155 | 35 | | | |
| 医学科 | 前期 | 90 | 352 | 271 | | 93 | | | 103 |
| | 後期 | 10 | 238 | 100 | | 10 | | | |
| 保健学科 | 前期 | 123 | 202 | 202 | | 129 | 11 | 2 | 145 |
| | 後期 | 20 | 159 | 159 | | 25 | | | |
| 看護学専攻 | 前期 | 63 | 90 | 90 | | 68 | 9 | 1 | 70 |
| | 後期 | 7 | 55 | 55 | | 10 | | | |
| 検査技術科学専攻 | 前期 | 30 | 55 | 55 | | 31 | 2 | 1 | 38 |
| | 後期 | 7 | 59 | 59 | | 8 | | | |
| 理学療法学専攻 | 前期 | 15 | 34 | 34 | | 15 | | | 19 |
| | 後期 | 3 | 28 | 28 | | 4 | | | |
| 作業療法学専攻 | 前期 | 15 | 23 | 23 | | 15 | | | 18 |
| | 後期 | 3 | 17 | 17 | | 3 | | | |

〈工学部・農学部学科別内訳〉

| 学部・日程 | | 募集人員 | 志願者数 | 第1段階選抜合格者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学 辞退者数 | 追加 合格者数 | 入学者数 |
|-----------|----|------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------|----------------|------------|------------------|
| 工学部 | 前期 | 857 ^人 | 2,323 ^人 | 2,322 ^人 | 2,291 ^人 | 862 ^人 | 6 ^人 | | 957 ^人 |
| | 後期 | 98 | 1,006 | 806 | 384 | 101 | | | |
| 地球工学科 | 前期 | 166 | 449 | 449 | | 166 | 3 | | 184 |
| | 後期 | 19 | 293 | 231 | | 21 | | | |
| 建築学科 | 前期 | 72 | 272 | 272 | | 72 | | | 80 |
| | 後期 | 8 | 147 | 64 | | 8 | | | |
| 物理工学科 | 前期 | 211 | 558 | 558 | | 213 | 1 | | 236 |
| | 後期 | 24 | 181 | 181 | | 24 | | | |
| 電気電子工学科 | 前期 | 117 | 291 | 291 | | 118 | | | 131 |
| | 後期 | 13 | 96 | 91 | | 13 | | | |
| 情報学科 | 前期 | 81 | 185 | 184 | | 81 | | | 91 |
| | 後期 | 9 | 89 | 89 | | 10 | | | |
| 工業化学科 | 前期 | 210 | 568 | 568 | | 212 | 2 | | 235 |
| | 後期 | 25 | 200 | 150 | | 25 | | | |
| 農学部 | 前期 | 233 | 670 | 670 | 656 | 242 | 3 | | 310 |
| | 後期 | 67 | 743 | 742 | 464 | 71 | | | |
| 資源生物科学科 | 前期 | 75 | — | — | | 76 | | | 96 |
| | 後期 | 19 | 166 | 166 | | 20 | | | |
| 応用生命科学科 | 前期 | 38 | — | — | | 40 | 1 | | 50 |
| | 後期 | 9 | 168 | 168 | | 11 | | | |
| 地域環境工学科 | 前期 | 26 | — | — | | 27 | | | 38 |
| | 後期 | 11 | 88 | 88 | | 11 | | | |
| 食料・環境経済学科 | 前期 | 23 | — | — | | 25 | | | 34 |
| | 後期 | 9 | 91 | 90 | | 9 | | | |
| 森林科学科 | 前期 | 45 | — | — | | 47 | 1 | | 59 |
| | 後期 | 12 | 193 | 193 | | 13 | | | |
| 食品生物科学科 | 前期 | 26 | — | — | | 27 | 1 | | 33 |
| | 後期 | 7 | 37 | 37 | | 7 | | | |

2. 合格者 最高点・最低点（総点）調

（備考） 1）法学部・経済学部 of 外国学校出身者のための選考を除く。
2）総点については、前期・後期共合格発表時のものである。

| 学 部 | 日 程 | | 満 点 | 総 点 | | | |
|---------------|-----|-------|---------|------------|----------|------------|--------|
| | | | | 最 高 点 | 最 低 点 | 平 均 点 | |
| 総 合 人 間 学 部 | 前 期 | (文 系) | 800 点 | 639.58 点 | 535.00 点 | 569.03 点 | |
| | | (理 系) | 800 | 576.25 | 452.00 | 493.04 | |
| | 後 期 | | 800 | 616.33 | 557.33 | 578.96 | |
| 文 学 部 | 前 期 | | 700 | 580.50 | 466.75 | 494.86 | |
| | 後 期 | | 700 | 508.75 | 462.75 | 480.06 | |
| 教 育 学 部 | 前 期 | | 900 | 668.41 | 593.91 | 622.42 | |
| | 後 期 | | 900 | 675.66 | 566.57 | 601.68 | |
| 法 学 部 | 前 期 | | 750 | 629.75 | 486.50 | 519.31 | |
| | 後 期 | | 500 | 418.75 | 389.25 | 398.69 | |
| 経 済 学 部 | 前 期 | (一 般) | 800 | 630.00 | 527.00 | 554.99 | |
| | | (論 文) | 1,000 | 696.33 | 527.33 | 579.76 | |
| | 後 期 | | 950 | 731.05 | 621.90 | 652.28 | |
| 理 学 部 | 前 期 | | 650 | 512.00 | 356.00 | 404.72 | |
| | 後 期 | | 400 | 331.00 | 277.00 | 295.73 | |
| 医 学 部 | 前 期 | | — | — | — | — | |
| | 後 期 | | — | — | — | — | |
| | | | | | | | |
| 医学部学科別 | | 日 程 | 満 点 | 総 点 | | | |
| | | | | 最 高 点 | 最 低 点 | 平 均 点 | |
| 医 学 科 | | 前 期 | 1,300 点 | 1,120.00 点 | 958.00 点 | 1,009.13 点 | |
| 保健学科看護学専攻 | | | 1,200 | 859.66 | 481.66 | 632.73 | |
| 保健学科検査技術科学専攻 | | | 1,200 | 852.83 | 695.16 | 762.44 | |
| 保健学科理学療法科学専攻 | | | 1,200 | 808.83 | 642.00 | 712.21 | |
| 保健学科作業療法科学専攻 | | | 1,400 | 876.16 | 580.00 | 751.99 | |
| 医 学 科 | | | 1,450 | 1,156.75 | 1,043.25 | 1,084.16 | |
| 保健学科看護学専攻 | | 後 期 | 1,200 | 812.83 | 585.50 | 709.67 | |
| 保健学科検査技術科学専攻 | | | 1,200 | 846.16 | 760.83 | 778.75 | |
| 保健学科理学療法科学専攻 | | | 1,200 | 934.50 | 731.66 | 795.04 | |
| 保健学科作業療法科学専攻 | | | 1,400 | 748.16 | 674.50 | 705.00 | |
| | | | | | | | |
| 薬 学 部 | 前 期 | | 950 | 783.41 | 634.66 | 678.25 | |
| | 後 期 | | 950 | 707.62 | 603.75 | 632.87 | |
| 工 学 部 | 前 期 | | 1,000 | 856.91 | 592.66 | 669.47 | |
| | 後 期 | | — | — | — | — | |
| | | | | | | | |
| 工学部学科別 | | 日 程 | 満 点 | 総 点 | | | |
| | | | | 最 高 点 | 最 低 点 | 平 均 点 | |
| 地 球 工 学 科 | | 前 期 | 1,000 点 | 803.25 点 | 609.75 点 | 664.70 点 | |
| 建 築 学 科 | | | 1,000 | 813.33 | 635.91 | 688.18 | |
| 物 理 工 学 科 | | | 1,000 | 856.91 | 618.75 | 682.56 | |
| 電 気 電 子 工 学 科 | | | 1,000 | 802.41 | 592.66 | 652.82 | |
| 情 報 学 科 | | | 1,000 | 835.41 | 625.75 | 701.96 | |
| 工 業 化 学 科 | | | 1,000 | 792.25 | 596.50 | 650.53 | |
| 地 球 工 学 科 | | | 1,100 | 874.75 | 751.25 | 793.48 | |
| 建 築 学 科 | | 後 期 | (A選抜) | 450 | 355.50 | 273.00 | 307.50 |
| | | | (B選抜) | 450 | 285.00 | 269.50 | 274.38 |
| 物 理 工 学 科 | | 後 期 | 1,100 | 827.00 | 724.25 | 761.08 | |
| 電 気 電 子 工 学 科 | | | 500 | 392.69 | 261.87 | 294.33 | |
| 情 報 学 科 | | | 300 | 200.00 | 150.00 | 169.00 | |
| 工 業 化 学 科 | | | 1,000 | 662.33 | 593.66 | 621.86 | |
| | | | | | | | |
| 農 学 部 | 前 期 | | 1,050 | 853.25 | 644.91 | 702.31 | |
| | 後 期 | | — | — | — | — | |
| | | | | | | | |
| 農学部後期学科別 | | 日 程 | 満 点 | 総 点 | | | |
| | | | | 最 高 点 | 最 低 点 | 平 均 点 | |
| 資源生物科学科 | | 後 期 | 810 点 | 577.40 点 | 477.20 点 | 517.23 点 | |
| 応用生命科学科 | | | 810 | 602.70 | 525.96 | 557.29 | |
| 地域環境工学科 | | | 900 | 725.50 | 550.00 | 592.14 | |
| 食料・環境経済学科 | | | 800 | 611.32 | 565.66 | 587.62 | |
| 森 林 科 学 科 | | | 810 | 532.33 | 484.36 | 505.72 | |
| 食品生物科学科 | | | 290 | 247.40 | 220.95 | 234.39 | |

3. 志願者・入学者 出身高校等所在都道府県別調

上段…志願者数
下段…入学者数

| 都道府県 | 学 部 | | | | | | | | | | 計 |
|------|----------|------------|--------------|-----------|--------------|--------------|--------------|------------|-----------|--------------|-----------------|
| | 総合 人間 | 文 | 教育 | 法 | 経済 | 理 | 医 | 薬 | 工 | 農 | |
| 北海道 | 18 3 | 10 1 | 5 2 | 18 5 | 6 | 41 5 | 15 3 | 2 1 | 46 11 | 10 3 | 171 34 |
| 東北 | 青森 | 1 1 | 4 | 1 | 2 1 | 2 | 8 1 | 2 | 3 | 6 1 | 29 4 |
| | 岩手 | 1 1 | 3 1 | | 4 2 | | 3 1 | | 3 1 | 5 1 | 20 5 |
| | 宮城 | 7 2 | 5 2 | | 2 1 | 14 1 | 10 1 | 3 | 2 4 | 14 3 | 9 13 |
| | 秋田 | 3 1 | | 2 | | | 7 1 | 3 1 | 5 3 | 2 6 | 22 6 |
| | 山形 | 3 | 1 | | 2 | 4 | 1 | 1 | 6 2 | 1 1 | 19 3 |
| | 福島 | 4 2 | 6 1 | | 8 1 | 3 | 17 2 | 3 | 1 3 | 7 2 | 52 8 |
| | 茨城 | 9 1 | 12 1 | 4 2 | 12 1 | 12 | 21 3 | 11 1 | 5 9 | 28 2 | 10 20 |
| | 栃木 | 4 1 | 8 2 | 1 | 6 3 | 4 | 17 3 | 5 | 13 7 | 3 | 61 16 |
| 関東 | 群馬 | 4 | 12 4 | 3 | 14 3 | 12 2 | 16 3 | 4 | 3 1 | 11 1 | 4 13 |
| | 埼玉 | 26 4 | 19 1 | 5 2 | 8 | 23 4 | 30 2 | 12 1 | 7 1 | 25 4 | 16 19 |
| | 千葉 | 25 1 | 14 2 | 8 | 5 | 38 2 | 41 4 | 15 2 | 6 15 | 63 1 | 23 27 |
| | 東京 | 106 22 | 85 4 | 33 2 | 60 8 | 150 21 | 188 20 | 63 5 | 29 2 | 103 19 | 120 119 |
| | 神奈川 | 33 4 | 27 3 | 12 1 | 17 1 | 38 2 | 51 3 | 24 3 | 11 2 | 52 8 | 33 4 |
| | 新潟 | 6 1 | 3 1 | | 6 2 | 5 | 18 3 | 3 | 9 2 | 4 1 | 54 9 |
| | 富山 | | 6 2 | 6 3 | 5 2 | 9 2 | 10 4 | 7 3 | 3 1 | 18 7 | 5 25 |
| | 石川 | 1 | 5 2 | | 8 2 | 4 | 17 2 | 9 3 | 2 1 | 26 15 | 15 4 |
| 中部 | 福井 | 8 2 | 8 1 | 2 1 | 19 7 | 14 2 | 13 2 | 4 1 | | 18 4 | 7 2 |
| | 山梨 | 1 | 3 | 1 | 2 1 | 2 1 | 8 2 | 1 1 | | 4 1 | 5 3 |
| | 長野 | 7 | 16 1 | 4 | 28 4 | 14 1 | 29 3 | 9 3 | 5 1 | 13 4 | 15 2 |
| | 岐阜 | 12 9 | 31 | 7 | 21 6 | 17 4 | 21 5 | 8 2 | 12 3 | 42 9 | 14 4 |
| | 静岡 | 22 4 | 25 7 | 9 2 | 20 3 | 37 5 | 59 11 | 9 2 | 7 1 | 84 20 | 28 6 |
| | 愛知 | 37 13 | 47 8 | 23 4 | 75 20 | 67 6 | 119 18 | 45 13 | 36 10 | 173 57 | 75 16 |
| | 三重 | 19 2 | 23 7 | 3 | 18 5 | 10 2 | 33 7 | 11 4 | 6 1 | 62 18 | 11 4 |
| | 滋賀 | 19 3 | 27 6 | 8 2 | 25 5 | 19 5 | 46 11 | 20 5 | 12 1 | 121 38 | 37 5 |
| 近畿 | 京都 | 40 7 | 113 31 | 44 9 | 130 35 | 215 36 | 111 23 | 131 36 | 33 8 | 421 107 | 174 38 |
| | 大阪 | 80 23 | 164 47 | 46 8 | 270 70 | 247 48 | 212 40 | 176 41 | 64 14 | 674 190 | 295 70 |
| | 兵庫 | 73 11 | 89 20 | 18 3 | 181 52 | 156 35 | 136 29 | 138 54 | 43 9 | 406 131 | 129 36 |
| | 奈良 | 36 5 | 54 11 | 23 4 | 95 26 | 128 26 | 76 23 | 92 36 | 28 9 | 315 99 | 119 30 |
| | 和歌山 | 7 1 | 13 4 | 12 3 | 25 5 | 26 3 | 19 2 | 10 1 | 8 3 | 64 25 | 22 6 |
| | 鳥取 | 5 1 | 8 | | 12 4 | 4 | 13 1 | 3 1 | 2 1 | 12 4 | 7 2 |
| | 島根 | 3 1 | 7 3 | 3 | 5 1 | 1 | 3 2 | 1 | 6 3 | 2 1 | 9 3 |
| | 岡山 | 8 1 | 18 4 | 9 4 | 25 7 | 7 | 26 5 | 8 3 | 5 2 | 62 18 | 19 2 |
| 中国 | 広島 | 22 3 | 32 6 | 10 1 | 28 8 | 35 8 | 52 13 | 14 4 | 14 3 | 67 23 | 35 9 |
| | 山口 | 9 2 | 7 1 | 8 3 | 14 3 | 5 | 16 5 | 4 | 3 3 | 29 10 | 9 2 |
| | 徳島 | 7 2 | 2 1 | 2 | 11 3 | 4 2 | 4 | 3 1 | 1 7 | 23 4 | 12 4 |
| | 香川 | 13 2 | 27 7 | | 26 7 | 16 2 | 25 6 | 8 4 | 9 2 | 41 11 | 9 3 |
| | 愛媛 | 9 1 | 11 3 | 2 1 | 15 5 | 14 3 | 16 5 | 7 1 | 3 1 | 42 15 | 14 4 |
| | 高知 | 4 2 | 6 1 | 2 3 | 8 3 | 7 | 5 1 | 6 3 | | 17 3 | 10 2 |
| | 福岡 | 16 2 | 46 9 | 16 3 | 44 12 | 38 6 | 60 10 | 13 3 | 9 | 109 34 | 34 6 |
| | 佐賀 | 3 1 | 3 | 2 1 | 6 2 | 5 1 | 8 1 | 6 1 | 2 1 | 9 1 | 7 2 |
| 九州 | 長崎 | 2 1 | 6 | 1 | 2 1 | 3 | 8 3 | 11 4 | 1 | 16 5 | 4 1 |
| | 熊本 | 5 3 | 11 3 | 3 | 4 1 | 11 3 | 19 3 | 2 1 | 2 | 20 8 | 9 2 |
| | 大分 | 1 | 4 | 1 | 6 1 | | 4 | 1 | | 7 | 2 |
| | 宮崎 | 2 2 | 5 | | 6 4 | 4 | 8 1 | 3 | 1 | 5 3 | 1 6 |
| | 鹿児島 | 8 2 | 12 1 | 4 3 | 15 1 | 20 5 | 31 1 | 12 1 | 6 | 16 3 | 8 1 |
| | 沖縄 | 2 | 3 | 3 1 | 4 1 | 11 2 | 2 | | | 6 2 | 4 1 |
| | 合計 | 731 131 | 1,041 222 | 346 63 | 1,303 329 | 1,454 236 | 1,687 296 | 939 247 | 390 83 | 3,308 955 | 1,397 309 |
| | | | | | | | | | | | 12,596 2,871 |

| 都道府県 | 学 部 | | | | | | | | | | 計 |
|------|------------|--------------|-----------|--------------|--------------|--------------|------------|-----------|--------------|--------------|-----------------|
| | 総合 人間 | 文 | 教育 | 法 | 経済 | 理 | 医 | 薬 | 工 | 農 | |
| 三重 | 19 2 | 23 7 | 3 | 18 5 | 10 2 | 33 7 | 11 4 | 6 1 | 62 18 | 11 4 | 196 50 |
| 滋賀 | 19 3 | 27 6 | 8 2 | 25 5 | 19 5 | 46 11 | 20 5 | 12 1 | 121 38 | 37 5 | 334 81 |
| 京都 | 40 7 | 113 31 | 44 9 | 130 35 | 215 36 | 111 23 | 131 36 | 33 8 | 421 107 | 174 38 | 1,412 330 |
| 大阪 | 80 23 | 164 47 | 46 8 | 270 70 | 247 48 | 212 40 | 176 41 | 64 14 | 674 190 | 295 70 | 2,228 551 |
| 兵庫 | 73 11 | 89 20 | 18 3 | 181 52 | 156 35 | 136 29 | 138 54 | 43 9 | 406 131 | 129 36 | 1,369 380 |
| 奈良 | 36 5 | 54 11 | 23 4 | 95 26 | 128 26 | 76 23 | 92 36 | 28 9 | 315 99 | 119 30 | 966 268 |
| 和歌山 | 7 1 | 13 4 | 12 3 | 25 5 | 26 3 | 19 2 | 10 1 | 8 3 | 64 25 | 22 6 | 197 53 |
| 鳥取 | 5 1 | 8 | | 12 4 | 4 | 13 1 | 3 1 | 2 1 | 12 4 | 7 2 | 66 14 |
| 島根 | 3 1 | 7 3 | 3 | 5 1 | 1 | 3 2 | 1 | 6 3 | 2 1 | 9 3 | 40 14 |
| 岡山 | 8 1 | 18 4 | 9 4 | 25 7 | 7 | 26 5 | 8 3 | 5 2 | 62 18 | 19 2 | 187 46 |
| 広島 | 22 3 | 32 6 | 10 1 | 28 8 | 35 8 | 52 13 | 14 4 | 14 3 | 67 23 | 35 9 | 309 78 |
| 山口 | 9 2 | 7 1 | 8 3 | 14 3 | 5 | 16 5 | 4 | 3 3 | 29 10 | 9 2 | 104 29 |
| 徳島 | 7 2 | 2 1 | 2 | 11 3 | 4 2 | 4 | 3 1 | 1 7 | 23 4 | 12 4 | 69 20 |
| 香川 | 13 2 | 27 7 | | 26 7 | 16 2 | 25 6 | 8 4 | 9 2 | 41 11 | 9 3 | 174 44 |
| 愛媛 | 9 1 | 11 3 | 2 1 | 15 5 | 14 3 | 16 5 | 7 1 | 3 1 | 42 15 | 14 4 | 133 39 |
| 高知 | 4 2 | 6 1 | 2 3 | 8 3 | 7 | 5 1 | 6 3 | | 17 3 | 10 2 | 65 15 |
| 福岡 | 16 2 | 46 9 | 16 3 | 44 12 | 38 6 | 60 10 | 13 3 | 9 | 109 34 | 34 6 | 385 85 |
| 佐賀 | 3 1 | 3 | 2 1 | 6 2 | 5 1 | 8 1 | 6 1 | 2 1 | 9 1 | 7 2 | 51 9 |
| 長崎 | 2 1 | 6 | 1 | 2 1 | 3 | 8 3 | 11 4 | 1 | 16 5 | 4 1 | 54 15 |
| 熊本 | 5 3 | 11 3 | 3 | 4 1 | 11 3 | 19 3 | 2 1 | 2 | 20 8 | 9 2 | 86 21 |
| 大分 | 1 | 4 | 1 | 6 1 | | 4 | 1 | | 7 | 2 | 26 1 |
| 宮崎 | 2 2 | 5 | | 6 4 | 4 | 8 1 | 3 | 1 | 5 3 | 1 6 | 35 6 |
| 鹿児島 | 8 2 | 12 1 | 4 3 | 15 1 | 20 5 | 31 1 | 12 1 | 6 | 16 3 | 8 1 | 132 17 |
| 沖縄 | 2 | 3 | 3 1 | 4 1 | 11 2 | 2 | | | 6 2 | 4 1 | 35 7 |
| 合計 | 731 131 | 1,041 222 | 346 63 | 1,303 329 | 1,454 236 | 1,687 296 | 939 247 | 390 83 | 3,308 955 | 1,397 309 | 12,596 2,871 |

(備考) 高等学校・中等教育学校以外の外国学校出身者及び
大学入学資格検定合格者等の入学資格取得者を除く。

4. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

| 学 部 | 志 願 者 | | | | | | 入 学 者 | | | | | |
|----------------|---------------|--------------|-------------|---------|------------|-------------|-------------|------------|---------|---------|---------|-----------|
| | 総数 | 現 役 | 浪 人 | | | | 総数 | 現 役 | 浪 人 | | | |
| | | 16. 3 卒 | 15. 3 卒 | 14. 3 卒 | 13. 3 卒 | 12. 3 以前卒 | | 16. 3 卒 | 15. 3 卒 | 14. 3 卒 | 13. 3 卒 | 12. 3 以前卒 |
| 総合人間学 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | 743 | 449 | 213 | 45 | 7 | 29 | 132 | 68 | 53 | 7 | | 4 |
| | 検 9 他 3 | 検 5 他 2 | 検 1 他 1 | 検 1 | | 検 3 | 検 1 | 検 1 | | | | |
| | | 60.4% | 39.6% | | | | | 51.5% | 48.5% | | | |
| 文 学 部 | 1,059 | 635 | 329 | 60 | 11 | 24 | 223 | 108 | 100 | 12 | | 3 |
| | 検 16 他 2 | 検 6 他 2 | 検 5 | 検 3 | 検 1 | 検 1 | 検 1 | | | | | 検 1 |
| | | 60.0% | 40.0% | | | | | 48.4% | 51.6% | | | |
| 教育学部 | 351 | 211 | 98 | 30 | 5 | 7 | 63 | 43 | 19 | 1 | | |
| | 検 5 | 検 3 | | 検 2 | | | | | | | | |
| | | 60.1% | 39.9% | | | | | 68.3% | 31.7% | | | |
| 法 学 部 | 1,316 | 835 | 365 | 63 | 13 | 40 | 329 | 179 | 136 | 11 | 2 | 1 |
| | 検 10 他 3 | 検 4 他 2 | 検 1 他 1 | | | 検 5 | | | | | | |
| | | 63.4% | 36.6% | | | | | 54.4% | 45.6% | | | |
| 経済学部 | 1,478 | 804 | 452 | 126 | 32 | 64 | 238 | 114 | 101 | 15 | 3 | 5 |
| | 検 23 他 1 | 検 8 | 検 3 | 検 6 | 検 2 | 検 4 | 検 2 | | | | 検 1 | 検 1 |
| | | 54.4% | 45.6% | | | | | 47.9% | 52.1% | | | |
| 理 学 部 | 1,723 | 950 | 432 | 146 | 45 | 150 | 301 | 170 | 103 | 17 | 2 | 9 |
| | 検 35 他 1 | 検 9 他 1 | 検 10 | 検 5 | | 検 11 | 検 5 | 検 2 | 検 2 | | | 検 1 |
| | | 55.1% | 44.9% | | | | | 56.5% | 43.5% | | | |
| 医 学 部 医 学 科 | 590 | 216 | 115 | 45 | 25 | 189 | 103 | 52 | 39 | 6 | 1 | 5 |
| | 検 8 他 4 | 検 2 他 1 | 検 1 | 検 1 | | 検 4 | 他 1 | 他 1 | | | | |
| | | 36.6% | 63.4% | | | | | 50.5% | 49.5% | | | |
| 医 学 部 保健学科 | 361 | 204 | 77 | 30 | 14 | 36 | 145 | 82 | 33 | 16 | 6 | 8 |
| | | 56.5% | 43.5% | | | | | 56.6% | 43.4% | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 薬 学 部 | 391 | 241 | 89 | 13 | 11 | 37 | 84 | 47 | 31 | 2 | 4 | |
| | 検 1 | | | | 検 1 | | 検 1 | | | | 検 1 | |
| | | 61.6% | 38.4% | | | | | 56.0% | 44.0% | | | |
| 工 学 部 | 3,329 | 2,205 | 858 | 165 | 36 | 65 | 957 | 627 | 303 | 23 | 2 | 2 |
| | 検 19 他 2 | 検 10 他 2 | 検 5 | | 検 1 | 検 3 | 検 1 他 1 | 検 1 | | | | |
| | | 66.2% | 33.8% | | | | | 65.5% | 34.5% | | | |
| 農 学 部 | 1,413 | 769 | 462 | 83 | 34 | 65 | 310 | 151 | 140 | 13 | 5 | 1 |
| | 検 14 他 2 | 検 1 | 検 3 | 検 1 | 検 1 | 検 8 | 検 1 | | | | | 検 1 |
| | | 54.4% | 45.6% | | | | | 48.7% | 51.3% | | | |
| 合 計 | 12,754 | 7,519 | 3,490 | 806 | 233 | 706 | 2,885 | 1,641 | 1,058 | 123 | 25 | 38 |
| | 検 140 他 18 | 検 43 他 10 | 検 33 他 2 | 検 19 | 検 6 他 1 | 検 39 他 5 | 検 12 他 2 | 検 2 他 2 | 検 4 | | 検 2 | 検 4 |
| | | 59.0% | 41.0% | | | | | 56.9% | 43.1% | | | |

〔外国学校出身者のための選考に係る入学資格取得年別調（外数）〕

| 学 部 | 志 願 者 | | | 入 学 者 | | |
|-------|-------|------------|-----------|-------|------------|-----------|
| | 総 数 | 現 役 | 浪 人 | 総 数 | 現 役 | 浪 人 |
| | | 15.4～16.3卒 | 15. 3 以前卒 | | 15.4～16.3卒 | 15. 3 以前卒 |
| 法 学 部 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | 32 | 30 | 2 | 7 | 7 | |
| | 他 32 | 他 30 | 他 2 | 他 7 | 他 7 | |
| | | 93.8% | 6.3% | | 100.0% | |
| 経済学部 | 24 | 21 | 3 | 6 | 4 | 2 |
| | 他 24 | 他 21 | 他 3 | 他 6 | 他 4 | 他 2 |
| | | 87.5% | 12.5% | | 66.7% | 33.3% |

検…大学入学資格検定合格者
他…その他の入学資格取得者

平成15年度教育実習実施状況について

教育実習は教育職員免許法により、3単位の修得が義務づけられている。

平成15年度においては、全国36都道府県の国公私立高等学校104校、中学校30校、養護学校4校の協力を得て実施した。

本年度の特徴として、

- 1) 前年同様、教育実習参加者は200名弱で、過去数年間の水準を維持している。
- 2) 「介護等体験」制度（中学校教員普通免許状の取得希望者に、盲・聾・養護学校で2日間、保育所を除く社会福祉施設等で5日間、計7日間の体験を行うことが義務づけられた制度で、本学では2回生から実施可能。）の希望者増大がある。

特に介護等体験制度実施初年度（平成10年度後期）に2名の希望者が、平成11年度では21名、平成12年

度では61名、平成13年度では49名（前期：28名、後期：21名）、平成14年度では66名（前期：43名、後期：23名）、平成15年度では79名（前期：45名、後期：34名）となった。学生1名について2つの窓口（特殊教育諸学校と社会福祉施設等）が必要であり、学生の出身都府県での実施を原則としているため、事務処理に困難をともなった。

本学の現状では教員免許状取得希望者（とりわけ中学校教員免許状取得希望学生）の実情把握が困難であるため、教育実習及び介護等体験を円滑に運営するには、各学部・研究科の協力が今まで以上に求められる。関係各位のご理解とご協力をいただき、制度運営にあたりたい。

（教職教育委員会）

1. 学部、研究科別実習実施校（京都市立校及び出身校）

| 区 分 | 学 部・研 究 科 名 | | | | | | | | | | | | | | | | 計 |
|-----------|-------------|-------|--------------|----|---|---------------|---|---|-------|-------|------|-------|-----------|------|----|----|----------------|
| | 総人 | 文 | 教 | 法 | 経 | 理 | 医 | 薬 | 工 | 農 | 人・環 | エネルギー | 7/7・7/7/7 | 情報 | 生命 | 地球 | |
| 参加申込者 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都市立中学・高校 | | | 1 | | | 1(1) | | | | 2(2) | | | | | | | 4(3) |
| 京都市立養護学校 | | | 2 | | | | | | 2(1) | | 1(1) | | | | | | 5(2) |
| 取り止めた者 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上記区分終了者 | | | 3 | | | 1(1) | | | 2(1) | 2(2) | 1(1) | | | | | | 9(5) |
| 出身中学・高校等 | 10 | 47(5) | 31(1) (1) | 10 | 1 | 43(19) (1) | | | 18 | 21(4) | 3(3) | | | 5(5) | | | 189(37) (2) |
| 取り止めた者 | | | 1 | | | 1(1) | | | 2 | | | | | | | | 4(1) |
| 上記区分終了者 | 10 | 47(5) | 30(1) (1) | 10 | 1 | 42(18) (1) | | | 16 | 21(4) | 3(3) | | | 5(5) | | | 185(36) (2) |
| 実習終了者 | 10 | 47(5) | 33(1) (1) | 10 | 1 | 43(19) (1) | | | 18(1) | 23(6) | 4(4) | | | 5(5) | | | 194(41) (2) |

（注）枠内の（ ）は大学院生、〈 〉は科目等履修生で何れも内数。

2. 校種別実施状況

| 区 分 | 学 部・研 究 科 名 | | | | | | | | | | | | | | | | 計 |
|------|-------------|-------|--------------|----|---|---------------|---|---|-------|-------|------|-------|-----------|------|----|----|----------------|
| | 総人 | 文 | 教 | 法 | 経 | 理 | 医 | 薬 | 工 | 農 | 人・環 | エネルギー | 7/7・7/7/7 | 情報 | 生命 | 地球 | |
| 中学校 | 3 | 7 | 11(1) | 2 | 1 | 8(5) | | | 5 | 6(1) | 1(1) | | | 1(1) | | | 45(9) |
| 高等学校 | 7 | 40(5) | 20 (1) | 8 | | 35(14) (1) | | | 11 | 17(5) | 2(2) | | | 4(4) | | | 144(30) (2) |
| 養護学校 | | | 2 | | | | | | 2(1) | | 1(1) | | | | | | 5(2) |
| 合 計 | 10 | 47(5) | 33(1) (1) | 10 | 1 | 43(19) (1) | | | 18(1) | 23(6) | 4(4) | | | 5(5) | | | 194(41) (2) |

（注）枠内の（ ）は大学院生、〈 〉は科目等履修生で何れも内数。

本年度の教育実習は、全国36都道府県の国公私立高等学校104校、中学校30校、養護学校4校の協力を得て、実施した。

訃報

このたび、^{やまもととしはる}山本利治名誉教授、^{うおずみつお}魚住庸夫教授、^{かじやまゆういち}梶山雄一名誉教授、^{たばた}田端 ^{まもる}守名誉教授が逝去されました。
ここに、謹んで哀悼の意を表します。
以下に各氏の略歴、業績等を紹介いたします。

山本 利治 名誉教授



山本利治先生は、3月20日逝去された。享年71。

先生は、昭和31年京都大学文学部を卒業、京都府立城南高校教諭を経て、ふたたび京都大学大学院文学研究科で学ばれた後、同36年同大学文学部助手、同39年大阪大学教養部講師、助教授、同45年京都大学教養部助教授を経て同59年教養部教授に就任され、平成4年に総合人間学部教授に配置換えされた。

平成8年に停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

この間、平成4年から平成6年まで評議員を務め

られ、大学の管理運営と総合人間学部の立ち上げに貢献された。

本学退官後は、平成8年から平成15年までノートルダム女子大学（平成11年「京都ノートルダム女子大学」と改称）教授として引き続き教鞭をとられ、その間大学の副学長も務められた。

先生の専門は18世紀の英国小説であり、特に Jane Austen (1775-1817) の文学を、言語、社会、文化などの歴史的視点からできるだけ総合的に捉える一方で、言語を操る生き物である人間が作り出すもろもろの物語の仕組みとその読み解き、言葉の遊びなどにも関心を示されて、この分野の研究で卓越した業績を残された。

（大学院人間・環境学研究科）

魚住 庸夫 法学研究科附属法政実務交流センター法科大学院準備部門教授



魚住庸夫先生は、3月27日逝去された。享年62。

先生は、昭和39年京都大学法学部を卒業後、司法修習生を経て判事補に任官され、東京地裁判事、那覇地裁判事（部総括）、最高裁判所調査官、東京地裁判事（部総括）、金沢地裁所長、東京高裁判事（部総括）等を歴任された。この間、最高裁判所調査官として数々の重要判例の生成を支え、また、東京地裁の裁判長としていわゆる東京 HIV 訴

訟の和解成立に尽力するなどされた。

先生は、平成15年4月京都大学教授（大学院法学研究科附属法政実務交流センター法科大学院準備部門）に就任され、裁判法務の教育・研究と法科大学院の開設準備に熱心に取り組んでおられた。同16年4月からは、新設の同研究科法曹養成専攻（法科大学院）で、その高い識見と豊かな実務経験に基づいて、学生を指導し、次代の法律家を育てていただくことになっていた。法科大学院発足を目前にした、惜しまれるご逝去となった。

（大学院法学研究科）

梶山 雄一 名誉教授



梶山雄一先生は、3月29日逝去された。享年79。

先生は、昭和23年3月京都大学文学部哲学科を卒業ののち、同大学大学院（文学部）特別研究生を経て、昭和31年4月京都大学文学部助手に就

任、同36年3月助教授に、同46年11月教授に昇任し、以後16年余りにわたり宗教学第三講座（仏教学）を担当された。昭和63年3月停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和52年1月より同54年1月まで評議員を務められ、大学の管理運営に貢献された。本学退官後は仏教大学教授、創価大学教授を歴任され、わが国の仏教学の

発展に尽力された。

先生の専門はインド大乘仏教思想史であり、中でも般若経をはじめとする大乘經典の研究、中観思想研究、仏教論理学と認識論の研究において優れた研究業績を残された。先生のご研究は国内ばかりでなく、諸外国の大学、研究機関からも高い評価を受け、米国のウィスコンシン大学、カリフォルニア大学、ハーバード大学、ドイツのハンブルク大学、オーストリアのウィーン大学およびオランダのライデン大

学から客員教授として招かれて講義された。著書に『般若経－空の思想』、『「さとり」と「回向」』、『論理のことば』などがあり、欧文論文集が『Studies in Buddhist Philosophy』として刊行され、和文著作集（全7巻）が刊行の予定である。

以上の業績により、昭和34年日本学士院賞、同年日本印度学仏教学会賞、同63年東洋哲学学術賞を受賞された。

（大学院文学研究科）

田端 守 名誉教授



田端 守先生は、3月31日逝去された。享年73。

先生は、昭和28年京都大学農学部農林生物学科を卒業、農学部助手、薬学部講師、助教授を経て昭和52年教授に就任、薬学科生薬学講座を担当された。平成6年停年により退官され、名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和53年より薬学部附属薬用植物園長、同59年から3年間評議員として、薬学部および京都大学の管理運営に参画し、大学の発展に尽力された。また、学外においては日本薬学会理事、日本生薬学会庶務幹事として学会の発展に尽力された。

先生は、生薬学における研究と教育に従事され、

特に生薬学、薬用植物学、植物遺伝学の分野において、優れた研究業績を挙げられた。

先生は、植物の細胞・組織培養の技術に着目し、日本の薬学分野にいち早く取り入れて多くの薬用植物の培養系を確立し、それらの生産する二次代謝産物の生合成機能研究や薬学的応用研究を発展された。これらの研究の先導によって、昭和54年日本薬学会学術奨励賞を受賞された。さらに、トルコの伝承薬物に関する学術調査を行い、伝統薬物情報を全国規模で明らかにされた。その調査報告集は当該地の貴重なデータ・ブックであり、薬学領域における伝統薬物調査研究の規範となっている。

このような永年にわたる多くの研究の功績から、平成15年日本生薬学会の名誉会員に推戴された。

（大学院薬学研究科）

日誌 2004.3.1 ～ 3.31

3月8日 学生部委員会
9日 評議会
10日 同和・人権問題委員会と人権問題対策委員会との合同委員会
御車会館閉館式
11日 附属図書館商議会
13日 入学試験（後期）（14日まで）
16日 評議会
大学院審議会

17日 医療技術短期大学部卒業式
国際交流会館委員会
国際交流委員会
23日 修士学位授与式
博士学位授与式
24日 卒業式
25日 入学者選抜方法研究委員会
30日 評議会
将来構想検討委員会
全学情報セキュリティ委員会

お知らせ

平成16年度創立記念行事音楽会の開催

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記のとおり音楽会を開催いたします。
本学学生・教職員の来聴を歓迎します。

名称・演奏者 中野振一郎(チェンバロ)とコレギウム・ムジクム・テレマン
日 時 平成16年 6月17日(木) 開場：午後5時30分
開演：午後6時30分
終演：午後8時30分(予定)

会 場 京都コンサートホール(大ホール)
(京都市左京区下鴨半木町1-26)

プログラム

《第一部》(約40分)

- A. ヴィヴァルディ：2つのヴァイオリンとチェロの為の協奏曲
ニ短調 op. 3-11
J. パッヘルベル：カノンとジグ
J. S. バッハ：管弦楽組曲 第2番 ロ短調 BWV 1067より
G. F. ヘンデル：トランペット組曲 ニ長調
―― 休憩(20分間) ――

《第二部》(約40分)

中野振一郎によるチェンバロソロコーナー

- J. S. バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第5番
ニ長調 BWV 1050
I Allegro II Affettuoso III Allegro

演奏者略歴

中野 振一郎 (チェンバロ)

京都生まれ。1986年桐朋学園大学音楽学部演奏学科(古楽器専攻)を卒業。

90年10～11月に大阪で開いた4回連続の独奏会「ヨーロッパ・チェンバロ音楽の旅」により「大阪文化祭金賞」等を受賞。翌年7月にはフランスの「ヴェルサイユ古楽フェスティバル」のクーラン・サイクルに出演。ケネス・ギルバートやボブ・ファン・アスベレンら欧米を代表する名手と肩を並べ「世界の9人のチェンバリスト」の一人に選ばれる。92年6月、「パークレー古楽フェスティバル」へ最年少の独奏家として招かれる。93年ロンドンのウィグモア・ホールのデビュー・リサイタルを開き、「日本人には珍しいパーソナリティーを持っている。」と的確な評価を受けた。

94年10～12月にはサイモン・スタンデイジとの二重奏を含む3回連続の演奏会「チェンバロ三夜物語」を東京で開き、「豊かな表現」(音楽評論家・岡部真一郎氏＝日本経済新聞)が改めて注目を集めた。95年3, 6, 10月と日本経済新聞社主催の「日経リサイタルシリーズ/ワークショップ オブ ミュージック」に出演し、「柔軟・自由・ほどよい即興で自然体, “楽興の時”をきざんでゆく」(音楽評論家・故中河原理氏＝1995年6月19日付朝日新聞・夕刊)或いは、「さりげない素顔を見せるこの若い音楽家は、間違いなく、日本が世界に誇るべき名手である」(音楽評論家・岡本 稔氏＝1995年10月20日付日本経済新聞・夕刊)と評された。

1999年2月のドイツ招聘演奏旅行ではコレギウム・ムジクム・テレマンを率いて見事に聴衆を沸かせ、ソリストとしてだけでなく、オーケストラの音楽を構成するディレクターとしての魅力を国際的にアピールすることができた。また99年の10月にはバッハの大曲「ゴルトベルク変奏曲」をCD収録し、11月には東京・名古屋で、12月には大阪で公演。「各変奏が持つ世界を可能な限り忠実に描出しようとする真摯な姿勢には心を打たれる」「先人たちの遺産を鑑み、大地をしっかりと踏まえた中野の解釈の方が説得力が大きい」「この基本的な解釈にさらなる年輪が刻まれるのを見守っていきたい」(音楽評論家・岡本 稔氏＝1999年11月9日付日本経済新聞・夕刊)と絶賛された。12月の大阪公演はこれを皮切りに毎年行われている。

2003年5月末にはドイツより日本から唯一招聘を受け、「バッハフェスティバルライブツィヒ 2003」に出演。ソロ演奏会及びコレギウム・ムジクム・テレマンとの共演等、ソリストあるいはミュージックディレクターとしての力量を遺憾なく発揮。中でもライブツィヒにおける「ゴルトベルク変奏曲」は特筆すべき公演で、現地でも高い評価を得た。尚、この様子はNHK教育テレビ「芸術劇場」にて放映され国内でも話題を呼んだ。CDの収録にも意欲的で、フランス、イタリア、ドイツ各国の作曲家の作品による多数のソロ・アルバムをリリース。中でも2000年にリリースした「ゴルトベルク変奏曲」では、ヒストリカル・チェンバロとモダン・チェンバロによる演奏とをあわせて収録し、レコードアカデミー賞に輝いた。コレギウム・ムジクム・テレマンとのセッションによるCDも2000年以来毎年リリースしている。2003年7月にはソロCDを二枚同時にリリースしている。



(主な受賞歴)

1991年度 「大阪文化祭賞・金賞」, 「大阪市・咲くやこの花賞」
1992年度 「村松賞」, 「関西芸術大賞・シルバー賞」
1994年度・1995年度・1996年度 「大阪文化祭賞・本賞」
1996年度 「文化庁芸術祭・音楽部門／新人賞」
2003年度 「第22回京都府文化賞」

- 備 考 1. 入場無料（入場の際は，本学学生証または職員証を呈示してください。）
2. プログラムは当日会場で配布します。
3. 定員は1,600名先着順とします。演奏中は入場できません。
4. 問い合わせ先：学生部学生課課外教養担当 TEL 内線2511

(学生部)

公開講座

平成16年度（第68回）農林経済・経営・簿記講習会

- 第1クラス 複式簿記の原理と応用（定員20名）
第2クラス 地域農業・農業経営の戦略的管理（定員20名）
第3クラス 食品トレーサビリティシステム構築の考え方（定員180名）

期 日： 平成16年7月12日～7月14日 第3クラスは7月13日のみ
場 所： 農学部講義室等
対 象： 行政・団体職員・高等学校教諭・農業者・食品企業・食品関連企業・若手研究者・大学院・学部学生など
講 師： 農学研究科教授 新山陽子他5名
受 講 料： 第1・第2クラス9,200円，第3クラス6,200円
申込方法： 開催要項および申込用紙を下記まで請求してください。
定員になり次第メキります。
申込用紙は京都大学ホームページからもダウンロードできます。
<http://www.kyoto-u.ac.jp> からお知らせー公開講座にお入りください。
申込期間： 6月14日～6月25日（必着）
連 絡 先： 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻「公開講座係」あて
電話075-753-6200

編集後記

今年度から京都大学は独立法人になった。まだ，変化の実感はあまり無いけれども，広報委員としての実感が最も早くやって来そうである。これからは，広報も重要性が増してくるに違いない。話によれば，広報委員会は，現在のような代表制ではなくて，指名制で実行力のある少人数の組織に変わるらしい。庭の木も，時々剪定してやらないと，美しく元気に育たないので，こういう機会があるのは良いことかもしれない。よって，僕は委員をお役御免になり，ささやかな国語の時間を失う予定である。

(笹倉記)